

新首都圏広域地方計画 中間整理 目次構成（案）

はじめに

第 1 章 日本再興を確実にするための新首都圏広域地方計画

第 2 章 首都圏の現況と課題・首都圏の構造的な特性

- (1) 人口減少・少子化
- (2) 高齢化の進展
- (3) 巨大災害の切迫
- (4) 国際競争の激化
- (5) 食料・水・エネルギーの制約・環境問題
- (6) 劇的な進歩を遂げるICTの積極的な活用
- (7) 首都圏の構造的な特性

第 3 章 首都圏の課題解決に向けた基本的考え方

- (1) 防災・減災を組み入れた成長・発展戦略
- (2) 国際競争力を維持していくための世界都市機能の強化と国際的なネットワークの充実強化
- (3) 都市と農村の対流を視野に入れた異次元の超高齢社会への対応
- (4) 日本再興を確実にする取組と東京オリンピック・パラリンピックに向けた準備・ICTの活用
- (5) 東京一極集中是正に向けた首都圏の役割
- (6) 福島復興及び日本海・太平洋二面活用

第 4 章 首都圏の果たすべき役割と将来像

第 1 節 首都圏の果たすべき役割

- (1) 首都中枢機能の継続性の確保
- (2) 経済の牽引
- (3) 円滑な国土軸の相互連携の促進
- (4) 人口減少の痛みを和らげる地方との対流・循環の促進
- (5) 東北の復興、日本海の発展に対する寄与
- (6) 自然と共生しつつ、多様な人々が暮らし、働く環境づくり

第 2 節 首都圏の目指すべき将来像

第 5 章 首都圏版「運命の 10 年」コアプログラム

第 1 節 首都圏からはじめる確固としたデータ蓄積と高度なICTに基づく科学的な国土管理・国土活用(A.)

地籍調査、国土の不明化・死蔵化対策、高精度測位社会、IoT、防災対応の高度化

第 2 節 巨大災害にも対応できるレジリエンス首都圏の構築(B.)

ポスト 3.11 の計画、首都直下地震対策、地球気候変動災害対策、事前復興、ドクターヘリ、データセンター、空き家を応急仮設住宅へ、老朽化対策、メンテナンス

第3節 世界最大の経済集積圏としてのスーパーメガリージョンの形成(C.)

三大都市圏が災害時にバックアップしあう「非常時補完性」、先端医療の拠点、対流拠点整備(相模原、甲府等)、東京一極集中の是正、学術・文化・芸術等のソフトパワーの強化

第4節 首都圏新構造の構築(D.)

(1) 北関東新産業東西軸の創出

エネルギー構造の変化、LNG、水素、洋上風力発電、バイオマス等次世代エネルギーの新産業ベルト地帯

(2) アジア的視点に立った新たな地政学的戦略に基づく首都圏の太平洋・日本海の二面化

3.11 における日本海側の役割、アジア・ユーラシアダイナミズムの取り込み、羽田・成田空港、京浜港・新潟港、圏央道・外環道、人・モノ・カネの国内外の円滑な移動、海洋資源確保と特定離島

(3) 福島復興への支援

次世代産業(医療・エネルギー・農林水産)、次世代観光への支援

(4) 新たな成長基盤の構築

ロボット・航空宇宙・ICT等の次世代産業、次世代型観光、インフラ輸出、アジアの「人材」育成、自動車社会の未来像

第5節 共生首都圏の形成と都市農村対流(E.)

(1) 首都圏版コンパクト＋ネットワークの推進

多核ネットワーク型、プロジェクトを重ねる、小さな拠点、オールドニュータウン再生
女性の働く環境改善、健康づくり、在宅医療の効率化、介護デバイス、空き家の活用・住み替え促進、多様なサービスの循環、コミュニティの調整、ユニバーサル社会

(2) 生物多様性を取り込んだ共生首都圏の形成

生物多様性、都市と自然の共生、エコロジカルネットワーク、エコシステムサービス、美しい都市・農山村

(3) 人口約4千万人規模の都市と農村の対流・循環

異次元の高齢化、二地域の関わり、新たなふるさとづくり、田園での子育て、巨大災害時の広域連携、食料自給率6%向上、参画型・分業型農業、里山・里海に外国人、「分断された社会」でなく「連携できる社会」

第6節 東京オリンピック・パラリンピックにターゲットをおいた首都圏・日本の躍進(S.)

日本再興を確実にする取組、国内回帰、次世代産業の育成、次世代型観光、インフラ・ストック効果、福島復興、ICTの活用、日本の高度なシステム(交通等)によるおもてなし